

聖書箇所 ルカ 19:1~10

メッセージタイトル:「きょう、救いがこの家に来ました」

テーマ:金持ちではあったが、同胞からも疎まれ、仲間外れにされていたザアカイという取税人が、イエスに捜し出され救いに導かれる。「救いがこの家に来た」という意味の考察。救われるとは新しいのちに招かれ、生き方が変わることである。

はじめに:

◎ザアカイという人物の情報

- ・名前—ザアカイ(日本語では「きよし」(?)という意味)
- ・人種—ユダヤ人
- ・住所—エリコという町の中
- ・職業—取税人のかしら
- ・経済状況—金持ち
- ・交友関係—同胞のユダヤ人から嫌われ、仲間外れにされていた
- ・身体的特徴—背が低い
- ・心の中—だれにも相手にされず孤独、好奇心は旺盛だったと思われる
- ・イエスをひと目見ようとした動機—イエスがエリコの町に入られる前に、一人の盲人の目を癒しておられる。その盲人はイエスを「ダビデの子」というメシアの称号で呼んでいた。ザアカイもこのニュースを知っていたと思われる

◎いちじく桑の木についての情報

いちじくと桑の特徴を合わせ持つ木。外見は桑の木に似ている。その実はいちじくの実に似て香りもいちじくに似ているが、味は劣る。樹木はおおきいものでは15m程の高さになり、18m程に広がる。

本論:

◎イエスとの出会い

いちじく桑の木に登ってイエスを見ようとしていたザアカイに、イエスの方から声をかけて下さった。

「ザアカイ、急いで降りて来なさい」—イエスが初対面のザアカイの名を知っておられる!

「きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから」—一人から毛嫌いされている取税人の所にイエスが泊まられる!!

◎ザアカイの反応・・・急いで木から降りて来て、大喜びでイエスを迎えた。

◎他の人々の反応・・・「あの方は罪人のところに行って客となられた」とつぶやいた。

◎ザアカイの変化

「私の財産の半分を貧しい人たちに施します」「だましとった物は4倍にして返します」
——財産（大切だと思っていたもの）に対する心の変化

今まで大切だと思っていたものが光を失い、神に心に向け従う人生へ。

心の内的変化——イエスを信じて従う（回心と新生が同時に起こっている）

◎イエスの宣言

「きょう、救いがこの家に来ました」、「この人もアブラハムの子なのですから」、「人の子は失われた人を捜して救うために来たのです」——イエスはザアカイを見つけ出し、ザアカイは救われた。

結論：

◎キリストを信じて新しく生まれ変わるとはどういうことか？

車に例えれば、車のエンジンが全く新しいものに取り換えられること。

*新しいエンジンの原動力は聖霊、古いエンジンの原動力は自分の力

*新しいエンジンの車に取り付けられている完璧なナビ——神のことば

◎ザアカイの心に起こったこと

*イエスに愛され、癒され、受け入れられて、彼はイエスを愛し、イエスを信じて直ちに心のエンジンが新しいエンジンに取り換えられた。

*新しいいのち（新しいエンジン）が始動し、行動が変化した（自分を利するものから他者を利する者へ）。

◎イエスの方法

あなたの名をお呼びになる→呼ばれた者はその呼びかけに答え、イエスを招き入れる→こんな私の所に来て下さったことを喜びお迎えするなら、私たちの心のエンジンは新しいものに取り換えられる。

◎イエスを信じている私たちの心はどうか

*私たちの心のエンジンが新しいものに取り換えられているという自覚があるか？

*新しいエンジン（新しいいのち）を古い原動力(自分の力)で動かそうとしていないか？

*新しいいのちが聖霊によって始動したら、完璧なナビ（神のことば）に行く道を委ねよう。

清いという名を持ちながら清い生活にほど遠かったザアカイは新しいいのちに生き始めたとき、その名にふさわしい者につくり変えられたのである。「きょう、救いがこの家に来ました。」